

## 自己評価結果公表シート（平成 22 年度）

作成：清友幼稚園

### 1. 園の教育目標

幼児の心身ともに健康な成長発達のために適切な環境を用意し、幼児期にふさわしい集団生活が展開されるよう配慮した幼児教育を目指している。教職員との信頼関係に支えられた活動、直接体験、友だちとのかかわりを通じて、個々の幼児が情操豊かで、良き生活習慣や人間関係に向かう意欲や態度を培う保育に取り組む。

本園では目指す教育目標として次の3項目を掲げる。

1. 心身共に健康で情操豊かな子どもに育む。
2. 誰とでも手をつなぎあっていける子どもに育む。
3. 人の話がしっかり聞ける子どもに育む。

### 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

#### 1. 本園の教育・保育内容の充実

(1) 今年度においても新規学卒および新任の教員が多いため、本園の目指す方向を再度確認しながら教育・保育を進めていく必要がある。各学年リーダーを中心に、昨年度取り組んできた内容を踏まえ、本園の教育・保育の原点を確認しあう。

(2) フリー教員の存在を最大限活かす体制を採り、新任教員に対する保育の援助指導面・管理面を分担し合う体制と、さらなる良好な人間関係の構築が必要である。

#### (3) 教育・保育内容の充実

始業・自由保育の開始時刻を見直し、ゆったりとした時間と遊びの中から社会性やルールを育む。

自由保育時間を増やし、一設定保育あたりの時間数を延ばすことにより、園児の集中力・自主性・創造性を高めていく。

絵画の専門講師(画家)の招聘により絵画教育の充実および教員の指導方法のレベルアップを図る。

音楽の専門講師の招聘により運動教育の充実および教員の指導方法のレベルアップを図る。

運動の専門講師の招聘により運動教育の充実および教員の指導方法のレベルアップを図る。

(4) 教職員の育成・評価制度において、教職員の評価を充実し、同時に能力開発を図る。

#### 2. 園の施設、設備、遊具などの総点検

(1) 施設、園庭、設備、遊具などの安全を、常時定期的に確認し、少しでも危険が予測される場合には速やかに改善していく。

プール事故防止のクッション材を設置する。

プール底部に塗装による滑り止めを施す。

<p>3. 安全管理体制の整備、強化</p> <p>(1) 火災、災害などの発生に際して園児、教職員をはじめ園内の安全を確保するために、通報、安全確保、避難、保護などの方法、手段を徹底する。</p> <p>(2) 不審者、侵入者などから園児をどう守るか、防御体制を強化する。 緊急避難路の確保など</p> <p>4. 預かり保育の実施</p> <p>(1) 園を取り巻く情勢から預かり保育の実施を行なっていく。</p> <p>5. 子育て支援の実施</p> <p>(1) キンダーカウンセラー事業として、専門家を招聘し、在園児であるなしに関わらず地域の子どもの発達に関する相談に応じていく。</p> <p>6. 保育料の改定</p> <p>(1) 保育の充実化、財政の健全化のため保育料の改定を行なう。</p> <p>7. 教職員の給与体系の見直し</p> <p>(1) 従来給与体系を一定維持しつつ、教職員の職務能力に応じた体系に改定していく。</p> <p>8. 園に対する保護者の満足度把握、情報共有及び情報公開</p> <p>(1) 私学の独自性に配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を確認し、地域社会に求められる本園の将来ビジョンの策定を引き続き行なっていく。</p> <p>(2) 保護者と教育・保育状況の情報共有をしていく。</p> <p>(3) 本園ウェブサイトにより、自己評価及び会計情報を公開していく。</p>
--

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1 - (1)	前年度4月から引続き取り組みの最中であるが、各学年リーダーを中心として、指導計画や記録・報告に関して改善を図ってきた。徐々に本園の考え方や保育方法を感じ取り、教職員の前向きな取り組みが見られた。今後の課題としては、全教職員の共通認識を下に保育内容のさらなる充実を図っていく必要がある。
1 - (2)	個々の学年、学級で様々な状態も見られたが、園の方針や指導を理解し、連携体制を取っていた。今後の課題としては、個々の教育・保育能力を高め、連携力をさらに高めていく必要がある。

1 - ( 3 )	<p>始業・自由保育の開始時間を見直し、ゆったりした時間と遊びの中から社会性やルールを培う取り組みを行なった。具体的には、登園から設定保育までの時間帯を長く設定し直した。子どもたちの中で規範意識が育ち、教員主導から子ども主導の活動ができた。学年を越えた外あそびやクラスを越えた活動が実施できた。今後の課題としては、異学年の交流を計画的に行ないたい。</p> <p>一設定保育あたりの時間数を30分以上単位に延長することにより、園児の集中力・自主性・創造性を高める取り組みを行なった。教員の指導準備時間が不足したり、その時間に終始することなく、子どもを「待つ」時間が生まれた。これにより、子ども自身がひとつの取り組みに対して最後までやり遂げられるようになった。今後の課題としては、一設定保育時間を延ばすこと、教員の力量差を埋めるため、保育のねらいを十分に理解させ、指導力を向上させ、より保育の質を向上する必要がある。</p> <p>絵画の専門講師の招聘により絵画教育の充実および教員の指導方法のレベルアップを図った。いわゆる見本の真似事をさせないことで、教員自身も子どもたちの絵画の出来上がりを楽しみにできるようになった。絵画展に対して園内外の評価も高かった。課題としては、専門講師によるレベル設定が子どものレベルに対して、若干高度な面もあったため、レベル合わせを再調整する必要がある。絵画指導にあたって、専門講師の視点が違う点が良いので継続する。</p> <p>音楽の専門講師の招聘により音楽教育の充実および教員の指導方法のレベルアップを図ることについては、予定していた講師と時間が折り合わず実施に至らなかった。次年度に取り組んでいく。</p> <p>運動の専門講師の招聘により運動教育の充実および教員の指導のレベルアップを図った。前年度9月より引き続き、運動指導士による各学期毎の運動計画を立案し、教員との共通認識を持つことができた。子どもたちの発達に応じたプログラム(サーキットトレーニングなど)により、子どもたちがしっかり走ることができるようになった。今後の課題としては、さらに子どもの発達に応じた運動教育プログラムを策定し、実施していく。</p>
1 - ( 4 )	<p>外部研修参加などにより、教員の能力開発を図った。課題としては、内部研修の確立を行い、個々の能力開発を図る必要がある。教職員の育成・評価制度については、充実を図る必要がある。</p>
2 - ( 1 )	<p>プール事故防止のクッション材を設置し、プール底部に塗装による滑り止めを施し、設備の安全を図った。今後の課題としては、施設全体を通じて常時定期的に確認し、少しでも危険が予測される場合には速やかに改善していく必要がある。</p>
3 - ( 1 )	<p>火災、災害などの発生に際して園児、教職員をはじめ園内の安全を確保するために、避難訓練などを定期的に行なった。今後の課題としては、保護者へ</p>

	の連絡、引渡し訓練を計画実行し、迅速さを強化していく必要がある。
3 - ( 2 )	緊急避難路を確保した。今後の課題としては、園児避難や使用方法の確立および継続的な徹底が必要である。
4 - ( 1 )	預かり保育の実施を行なった。4月から平均137人の利用がある。徐々に利用者が増えており、保護者からの評価も高い。保護者によると子ども自身も預かり保育に行きたいと喜んでいるとのことである。担当教員を専従させ、ルールを決め、異年齢の関わりを持たすようにしたところ、子ども自身にできることが増えている。今後は、場所・備品を充実する必要がある。
5 - ( 1 )	キンダーカウンセラー事業として、専門家（臨床心理士）を招聘した。4月より月1回3人程度の在園児保護者の利用がある。専門家に子どもに関する相談ができることで、教員自身が安心して子どもに接することができるようになった。今後は、利用人数を増やし、保護者とより連携した保育を行なっていく必要がある。
6 - ( 1 )	保育の充実化、財政の健全化のため保育料の改定を次年度より行なう。保護者に対して、説明会の実施を行い、了解を得ることができている。今後も継続的に財政の健全化・安定化を図る必要がある。
7 - ( 1 )	従来の給与体系を一定維持しつつ、教職員の職務能力に応じた給与体系に移行している。賞与の一部を職務能力・実績に応じた配分を行なった。一定の人事評価により個別の能力が理解でき、また、園長自身が保育に関わる事によって、強点・改善点が見えてきたため、今後の改善につなげていく。給与について、適正な能力評価と連動した検討を進めていく必要がある。
8 - ( 1 )	前年度に引続き保護者アンケートを実施した。アンケート結果では、地域の交流を通じた子どもの育みやPTAを通じた保護者交流に課題があった。当園は、バス通園や給食設定がないが、在園児保護者の「自分の子どもはできるだけ自分で育てたい」という声もある。今後も、在園児保護者の意見を尊重しながら、地域社会に真に求められている内容（長時間の預かり、子ども園構想など）を調査し、社会ニーズに応えていく必要がある。
8 - ( 2 )	保護者と懇談会において教育・保育状況を情報共有している。音楽会を土曜日に開催し、父親・母親・小学生以上の在園児の兄弟が参加することにより、保育状況を見ていただくことができた。今後も教育・保育状況をより理解いただけるよう行事のあり方を見直していく必要がある。
8 - ( 3 )	独自ウェブサイトにより開設し、園の取り組み、自己評価及び会計情報を公開した。今後は、園の日々の取り組みなどについても発信する必要がある。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な結果 A・B・C・D・E

B	前年度から全面的な見直し、取り組みの真っ最中であるが、今年度は、保育の充実を図る取り組みを中心に行った。設定保育時間の見直しに始まり、自由保育のあり方、絵画・運動教育を充実する事ができた。また、預かり保育やキンダーカウンセラー事業を実施することができ、保護者や教員が安心し
---	--

	<p>て保育できる環境を整えることができた。子どもを中心に置いた保育環境の基礎づくりに努力しており、今年度の目標は概ね達成できた。一部について、次年度送りとなった項目があり、引続き対応していく。教職員の力量や能力差について、引続き能力開発を行ない、保育水準と質の向上を図る必要がある。</p>
--	--

## 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
預かり保育の充実	長期休暇（夏季、冬季、春季）に預かり保育を実施していく。
指導内容の充実	設定保育の中で、当園の基本教育目標に立ち返り、今社会に求められている基本教育を見直していく。
食育に対する取り組み	給食設定は行なわないが、保護者に対してお弁当づくりの意義などを伝え、食育に関する必要な情報提供を行なう。
教員数の充実	フリー教員を充実することで、担任が子どもたちと向き合うことに集中でき、小さな問題を見逃さないフォロー体制を整えていく。
教員の指導力の向上	園内外の研修の充実を図り、教員の指導力向上を図る。
地域開放・小学校との連携	未就園児に園庭を開放していく。卒園児が修学予定の地域小学校（主に6校）と連携し、小1プロブレムに対応していく。

## 6. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生が若いので、相談がしにくいという声がある一方、先生達の雰囲気やわらかくなり、話しやすくなったということをよく聞く。</li> <li>・ 自由保育に力点を置くことで、教員指導無しでは何も出来ない子どもではなく、自主性を重んじることが「子どもの生きる力の根っこ」を育てる保育に繋がっていることが子どもを通して感じられる。</li> <li>・ 恵まれた広い園庭で、多くの植物が育ち、生き物が生息しており、子ども達は興味深く図鑑で調べるなど、探究心が養われている。</li> <li>・ 園で保護者の同好会が育てた食べ物を、一緒に収穫し食べさせてくれていることは、何よりの食育と思う。また、食事の大切さに関する、講演会など色々と企画されていることは、評価できる。更に、お弁当の内容についての指導がもっとあれば良い。</li> </ul>
---

- ・平成22年度から導入された預かり保育は、気軽に子どもを預けることができる人が居ない保護者にとって、とてもありがたい制度だと思う。
- ・子育て支援については、キンダーカウンセラーという専門家に相談することで、各人の不安を取り除き、なおかつ担任の先生、家庭、カウンセラーの三者の連携により、子どもの成長を見守るという接し方を改めて知った。
- ・以前より、教員の入れ替わりが激しく、ベテランの先生が育たないているが、今後は幅広い年齢層の教員が園に居ることを望む。
- ・教員の研修を、再三開催して、資質の向上を望む。
- ・教育方針にある「人の話をしっかり聞くことが出来る」という面が、ここ1,2年で崩れ、子ども達の落ち着きが無くなってきているように感じる。思いっきり自由に過ごす時と、黙って人の話を聞く時とのメリハリを付けられるように、年齢に応じて伝えていって欲しい。
- ・それと同様に、保護者のマナーも崩れてきているように感じるので、けじめについては、園が厳しく対応して欲しいと思う。
- ・運動、絵画、音楽の特別講師の招聘により、子ども達の体力や情操面が伸びやかに育まれていると感じる。卒園児が小学校で、自信を失うことなく取り組める環境が整えられていると思う。特に以前、清友幼稚園卒園児は小学校で体育が苦手という傾向にあったので、運動の先生が居ることによって、その面で伸びることを期待されている声が多い。今後は、この先生方と各担任が良く話し合い、反省すべき点やこれからの課題を良く検討し、心身共に更に豊かに育っていくことができるように取り組んで欲しい。
- ・カウンセラーの存在や、その他の子育て支援について、もっと地域と関わり、広めていって欲しいと願う。

## 7. 財務状況

公認会計士による年3回の監査において、園児も相当数増加していること、来年度の保育料改定により、より安定した経営に向かう努力をしていること、財務状態は適正であることについて評価を受けている。